

2-11		主題	自ら主体となって現状の問題改善に取り組んで	
問題改善方法		副題	自分の力量で、どのように介護現場を動かし、改善に繋がられるか	
人材育成				
研究期間	7ヶ月	事業所	介護老人福祉施設 ひらお苑	
発表者：小川 新一郎			アドバイザー：	
共同研究者：斉藤 美月 仙洞田 貴子 内山 篤				
電話	042-331-5666	メール		
FAX	042-331-6006	URL	<a href="http://www.hiraokai.or.jp/">http://www.hiraokai.or.jp/</a>	

今回発表の事業所やサービスの紹介	新百合ヶ丘駅からバスで5分ほど、緑に囲まれた施設です。平成9年に開設し平成15年に増床、現在の定員は174名で、ご利用者は4フロアに分かれて生活をしています。平均介護度3.9、平均年齢86歳。介護職員は常勤66名、非常勤12名、嘱託2名で、職員対利用者比率は平均2.3対1です。
------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>専門学校を卒業し入社して丸3年が過ぎた4名の介護員。日々の介護業務に関しては一人で判断し、こなすことが出来る。また日々のリーダー業務につき、全体の流れを見ながら他の介護員に指示出しを行い業務を遂行している。居室担当としても、4名の利用者の現状を把握し、自分なりの思いをしっかり持ち、利用者の生活を豊かにするケアプランに繋がっている。このように、ともすると目立たずに淡々と自分の業務をこなすことには一生懸命であるが、積極的に自ら新しい問題点に取り組み、フロアを改善していこうとする気力を失いかけている。持てる力を発揮する、困難に取り組んでいく機会を作ることが必要である。</p>
--

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>4名の介護員がそれぞれ業務に就いているフロアに於いて、何か自分の力で現場の改善点や新しいことにチャレンジする。その過程において自分の思いをどのように理解してもらおうか、他の職員にどのように働きかけ、どう動かしていくか。さまざまな問題に突きあたりながら解決を見出すこと。同じような問題、課題にぶつかった時に同期としての繋がりをどう生かすか、尊敬できる先輩介護員をどう活用するかなどいろいろな成長をしてほしい。これから中心的役割を担うであろう介護職員として確かな力を身に付けて成長をすることを期待する。それぞれの目標を持ち、改善に取り組み、利用者のより良い生活を提供するために中心的存在となる介護員を目指す。</p>
---

### 《具体的な取り組みの内容》

介護員4人が平成22年12月に課題を決め平成23年1月よりそれぞれが取り組む。

1. 時間的人数的に余裕がなく消えてしまった「口腔体操とレクリエーション」の復活をする。

口腔体操とレクリエーションが行われない理由をアンケート調査をもとに原因を探り職員体制の見直し、増員を図り、実施をすることが出来た。また口腔体操については従来の実施方法でなくより有効な実施方法を見出し実施に取り組んだ。

2. 利用者の整容に対する職員の意識がうすく、衣服の汚れや食後のケアの徹底が不十分である。

食後の口腔ケアが実施しやすいように表の作成や用具の準備など環境面を整えるとともに職員の意識の改善を図り、徹底した実施に向け取り組んだ。

3. 利用者自身が楽器を手作りし演奏会を開き、利用者自ら意欲的に充実したレクリエーション活動をしていただく。

どのような手作り楽器が作れるか。どのレベルの作業ができるか、他の職員や利用者自身からのアドバイスにより作成し演奏会をすることが出来た。

4. おざなりになりがちな爪切りの定着化を図り、爪による怪我防止と衛生管理を図る。

爪切りの重要性を説き、曜日を決め、ゆとりをもって実施し、怪我の減少につながった。

### 《取り組みの結果と評価》

他の職員を説き伏せる、協力を仰ぐには自分の考えをしっかり持ち、理解してもらうこと。取り組みの明確な目標立て、手順の組み立て、他の批判を受けた時にどのように解決するか。利用者自身の言葉がどんなに救いになったかなどを感じる事が出来た。熱意と意思伝達というコミュニケーションやアンケートという方法によりさまざまな問題点を具体化させ、新たなヒントが得られた事などを通し、それぞれ各4人の介護員の目標を達成することが出来た。

### 《まとめ》

役割を与えられ実施する事によりさまざまな困難に突き当たった。その解決方法をどのように見出すか、他の協力をどのように仰ぐかなど自分自ら目標を設定したことにより多くのものを得ることが出来た。感謝する気持ち、利用者に対する観察力のアップなどこれから中堅職員として活躍する基礎づくりが出来た。ただ同期同志の互いの切磋琢磨は4年もすると同期よりフロアの職員同士の間のほうが重要であるところが判明した。一つのことを成し遂げると他の事にも積極的になるチャンスとなった。

《提案と発信》

(重要)

【メモ欄】